◎研究発表記録用紙

第（４）学年「自然の事物・現象の意味を追求する活動を通して，自ら問題を科学的に解決する児童の育成」

記録者（　東山　洋介　）（　　　　　　　　　　　　　　）

|  |  |
| --- | --- |
| 発言者 | 内容 |
| 質疑・応答  指導・助言 | ・４つの扇風機の実験，作りたいものを自分が進んで選ぶことが学びを深めたと感じた。  目的が明確で意識されていた。  ・イメージ図について，どのように書かせれば良いか，勉強になった。  ・電気くんの数について①個のときは⑳個，②個の時は４０個ではないか。  →本来は増やしたかったが，特に指定しなかった。  ・教科書について，開いて学習に取り組むと全部書いてあるので，どのように使い分けているのか。  →単元のねらい，身につけさせたい力で使い分けしている。どうしてその実験や活動をするのか常に意識させていた。  ・モーターの表記の仕方が教科書と違っていたが。  →仕組みが分かれば図に関して指定はしていない。  ・小中学生の純粋さがとても良い。「松ぼっくり，松葉，着火に使えることを知ってからの児童の学習に取り組む様子に変化がとてもある。普段，取り組めないことに教師が進んで教材研究をして，児童に伝えることが大切。   1. 教師自身が主題の意味を追求して取り組んでいる。児童と同じ姿勢で取り組み，指導自体を楽しんでいる。今回の研究は，何より教師が身をもって深い学びを実践しているところがよい。 2. 見える化…目で見えない事象をしっかり児童が表現できるように学習が取り組まれていた。数量や条件をしっかりおさえることで，科学的な気づきにつながっている。 3. 子供をしっかりみて，疑問を取り上げ，実証している。   子供たちの声をすくい上げ，実験を実施している。   1. 物作りの観点を取り入れているまた，児童に作成する扇風機を選択させて作る活動は，興味を持たせてとても良かった。 2. 振り返りの仕方。言葉で表すことで，できる＝わかった，につながっていて良かった。   ・さらに大切なのは  ゼンマイ仕掛けとかモーターなど，子供が分解して組み立てられるものが昔はあった。現在は，おもちゃの主要な部分がIT化されブラックボックス化している。便利で楽しい反面，子供レベルで仕組みを捉えられなくなっている。仕組みが分かる物作り体験などの活動は，積極的に取り入れることが大事。昔も今も，子供は，興味関心を刺激すると盛り上がって取り組む。大人が考える以上の取り組みも考えられる。現代の子供たちの置かれた環境の課題を押さえた上で子供たちの未来を考えていくことも大切。 |